

東日本大震災時における 工学院大学の初動対応と 帰宅困難者対応

2011年4月20日(水)13:30～17:00

2011年東日本大震災に関する新宿駅西口地域報告会
一駅周辺滞留者・帰宅困難者や超高層建築などの経験から
都心部の震災対策を考えるー

工学院大学建築学部まちづくり学科
准教授 村上 正浩

震災当日からの主な対応

□地震発生直後 防災センターを拠点とした初動対応

- 本部員参集(防火防災管理者、本部長ほか)
- 学科単位での状況確認の指示、被害概要の把握
(火災、EV内閉じ込め、物的・人的被害など)
- 地震情報等の提供、パニック防止

□18:30頃から 災害対策本部を拠点とした応急対応

- 災害対策本部の立ち上げ(2階JobStation前)
- 被害状況の調査(施設部)
- 周辺被害情報の収集、八王子校舎の情報収集
- 在館者(学生・教職員、来客者)の把握、名簿作成
- 学内被害状況等の提供(大学HP、20時頃から)
- 帰宅困難者対応(3月12日10時頃まで)

大学の震災時 対応の流れ

□初動期(直後から)

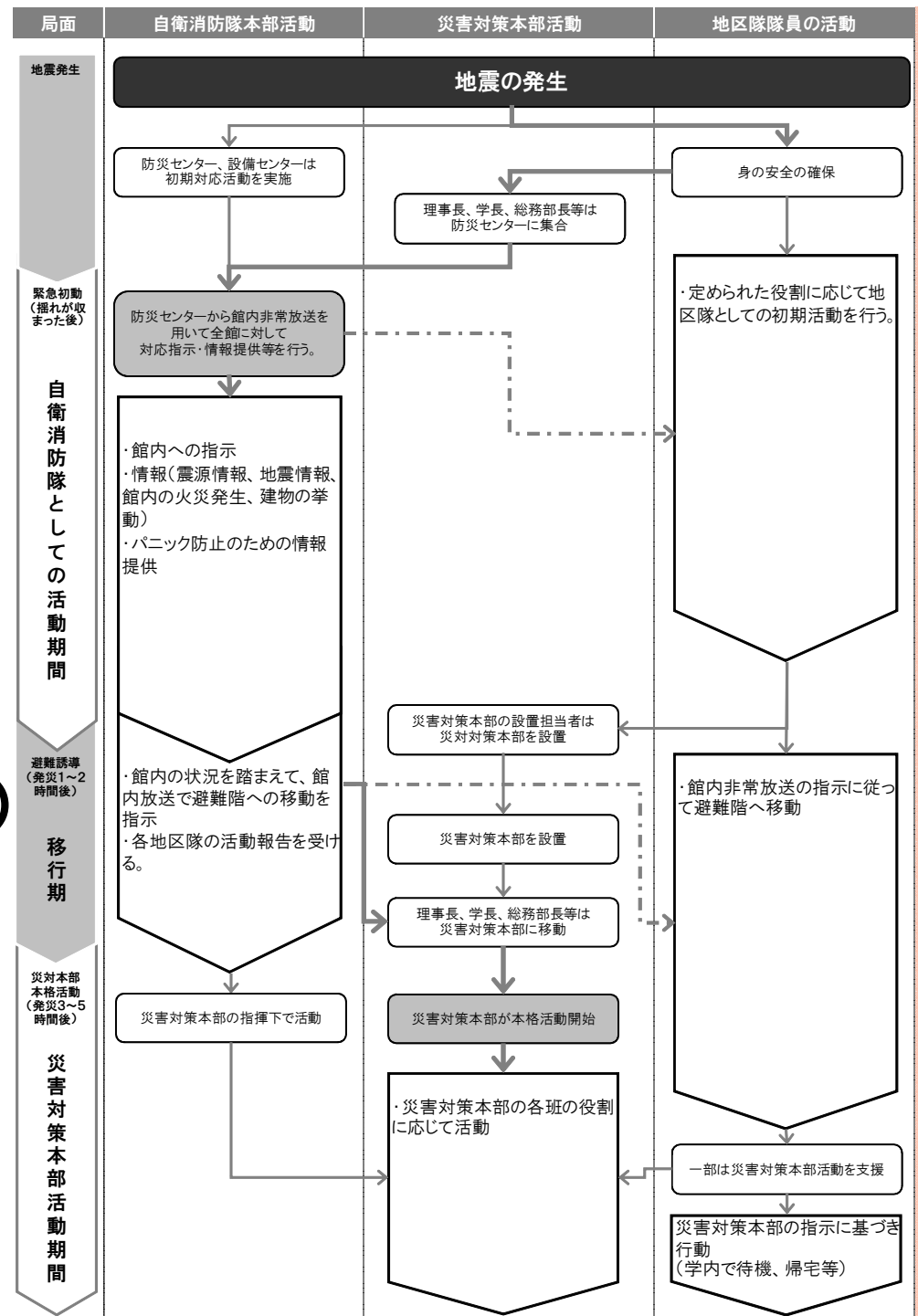
- ・防災センターを拠点とした
状況把握
- ・学科事務室を拠点とした
自衛消防隊による
情報収集と初動対応

□移行期(直後から数時間)

- ・災害対策本部設営
- ・本部機能の移行

□応急対応期(数時間後)

- ・災害対策本部を拠点とした
応急活動



発災後からの初動対応の様子



地震後の新宿駅西口周辺の様子



帰宅困難者への対応

□学内対応(→最終的に422名)

一斉帰宅の抑制、学生・教職員の安全確保の視点から
校舎内待機(研究室階、事務室階)を指示、名簿作成

□学外対応(→最終的に689名)

数時間後から1階アトリウムおよび地下1階ラウンジ内に学外者が
徐々に集まり始める

→本部長の判断により1階・地下1階で学外者の受入準備を開始

- ・防寒対策:暖房設備の稼働、マット・段ボール等の設置
- ・セキュリティ対策:入口の制限、受付設置、名簿作成
(名簿:氏名・性別等→学外問い合わせ対応含む)
- ・災害時要援護者対策:別室・専用フロア準備、看護師待機
- ・情報提供:テレビ、ホワイトボード、公衆電話など

帰宅困難者の受入



名簿(3月11日)

B1

			宿泊		名 前	性 別		備 考
	学内	学外	する	しない		男	女	
1		○		○			○	
2		○		○			○	
3		○	○			○		
4		○	○			○		
5		○		○			○	
6		○	○				○	
7		○		○		○		
8		○	○			○		
9		○	○			○		
10		○	○			○		
11		○	○			○		
12		○	○				○	
13		○	○				○	
14		○	○				○	
15		○	○				○	未定 電車回復次第帰宅
16		○	○				○	
17		○	○			○		
18		○	○			○		
19		○	○			○		
20		○	○				○	
21		○	○				○	
22		○	○				○	
23	○		○	○		○		
24	○		○			○		
25	○		○			○		

情報提供、安否確認の支援



支援物資等の提供(20時30分頃から)

分類	物資	数量(概数)
水・食料	水(500ml)	750本
	缶詰(スキヤキ、肉じゃがなど)	1,220個
	缶詰(パン)	240個
	アルファ米(1人用パック) (※お湯は2階給湯室で提供)	1,150個
防寒備品	災害救援用カーペット	40枚
	毛布	60枚
	保温シート	180枚
応急手当	救急セット	5個



今後の課題

□学内の初動対応における課題

- ・震災対応マニュアル、通信機器、本部活動に必要な備品
- ・自衛消防組織による組織的な情報収集や安否確認
- ・指示命令系統の混乱 など

□帰宅困難者対応における課題

- ・ライフラインや給排水・空調設備が被害を受けなかったこと、傷病者が発生しなかったことから、受入などの対応は行えた。

東海地震、東南海地震等では ？

首都直下地震では ？

- ・新宿西口現地本部を拠点とした地域の事業者や新宿区等との連携による情報共有・情報提供のあり方、帰宅困難者対応のあり方については今後の検討課題